# 瀬名紫陽花のお話　シーズン２

#瀬名紫陽花のお話　シーズン２

濑名紫阳花的故事 其2

#

#『お姉ちゃん、なにかいいことあった？』って広樹に聞かれた。

广树问我，『姐姐，是遇到什么好事情了吗？』

#夕食を作りながら、なんにもないよーって答えたんだけど。

我一边做着晚餐，一边回答他『什么都没有哦——』

#その後、洗い物を手伝っていると、お母さんから『なにかいいことあったんでしょ』って言われてしまった。

之后，在帮忙洗东西的时候，妈妈也对我说『遇到什么开心事了吧』。

#紫陽花は少し悩む。私、そんなに顔に出やすいのかなあ……って。

紫阳花感到有些郁闷。我，很容易露出那样的表情吗……？

#そりゃ、ちょっとは浮かれちゃってたけどね。でも、しょうがない。私はずっとおあずけされていたんだもん。待ちに待ったご褒美なんだから。

这真是，让人有点静不下来啊。不过，也没办法嘛。因为一直都被吊着。总是在期待着表扬。

#『それはよかったね、紫陽花』

『那真是太好了啊，紫阳花』

#「うん……。すごく、うれしかった」

“嗯……。我，非常开心”

#夜、紫陽花はベッドに丸まって、通話をしていた。

晚上，紫阳花在床上缩成一团，打着电话。

#彼女の声は、きょうも透通っていて、金色の光みたいにきれいだった。

她的声音，今天也十分通透，仿佛闪着金色的光芒一样好听。

#「でも、真唯ちゃん……その、だいじょうぶ？」

“但是，小真唯……那个，你还好吗？”

#『ちゃんと、君たちの逢瀬が終わった後に。私もね、好きって言ってもらったから、平気さ』

『在和你们好好地见了一面之后。我啊，也得到了你们的喜爱，所以没事的，你放心吧』

#飾らない真唯の声。

真唯的声音没有什么掩饰。

#「ん、そっか」

“嗯，是吗”

#その言葉が強がりなのか、あるいは本音なのか、紫陽花にはまだ判別がつかない。

紫阳花无法分辨真唯说的是在逞强，还是真心话。

#もしかしたら、真唯にすらわからないのかもしれない。それほどまでに、真唯は自分を強く在あろうと努つとめている。だけど……いや、だからこそ。

这个问题说不定就连真唯自己也不清楚。但真唯在努力让自己变得更强。只不过……不对，正是因为这样。

#「あのね、真唯ちゃん……。私が喋しやべったんだから、真唯ちゃんのことも聞かせてほしいな」

“那个，小真唯……。既然我已经说了，所有我也想听听真唯的事情呢”

#『私のこと？』

『我的事情？』

#「うん。真唯ちゃんとれなちゃんが初めてキスしたときは、どうだったの？」

「嗯。小真唯和小玲奈第一次接吻的时候，是怎样的？」

#『そ、それは』

『那，那个啊』

#焦あせる真唯が面白くて、つい笑ってしまう。

紧张的真唯十分有趣，我忍不住笑了出来。

#もちろん、恥ずかしがっているよりは、それを聞いて紫陽花が不快な気分にならないだろうか、という気き遣づかいのほうが大きいだろう。

当然，比起害羞，或许更多是因为她在担心紫阳花听了之后会不会不开心吧。

#だからこそ、あえて聞く。

正因如此，才更要问。

#「ねえねえ、教えてほしいな。いいでしょ、今だったらどんな話をされても、大丈夫な気分なの。ね、知らないままのほうがずっと気になっちゃうよ」

「说嘛说嘛，好想听啊。可以的吧，现在的话，感觉无论听到什么话都没关系。不如说，如果一直都不知道的话，才会更容易总是想着呢」

#『むう……。君がそこまで言うなら、わかった』

『唔……。既然你都说到这个份上了，我知道了』

#わざとワガママを言って、真唯を困らせる。

特意说出任性的话，特意麻烦真唯。

#紫陽花には今、ふたつの目標がある。

紫阳花现在的目的，有两个。

#ひとつは、れな子に好きという気持ちをちゃんとわかってもらうこと。どうやられな子は、自分だけが一方的に紫陽花のことを好きだと思っているようなのだ。

其中一个是让玲奈子明白自己有多喜欢她。不知为什么，玲奈子好像以为自己喜欢紫阳花只是单相思而已。

#そんなわけがないと口でいくら説明しても、聞いてくれない。なので、これからもちゃんとわかってもらえるように、紫陽花は行動するつもりだ。道は険しいけれど……。

虽然自己已经说了不是那样的，但玲奈子并没有听进去。所以，为了让玲奈子好好理解，紫阳花准备展开行动。虽然似乎有着重重阻挠……。

#そして、もうひとつの目標。

然后，是另一个目的。

#『そこで急に雨に降られてしまって、私はれな子とホテルを借りてね』

『那天，突然下起了大雨，于是我和玲奈子去酒店开了间房』

#「ほ、ホテル……!?」

「酒，酒店……！？」

#真唯に、ちゃんと素直になってもらいたい。

让真唯变得直率。

#嫌なことは嫌だって、傷ついたときには傷ついたって、言ってほしい。

不喜欢就说不喜欢，伤心就说伤心。直率地说出来。

#真唯は自分よりもずっと強い人だけど、だからといって痛みを感じないはずがない。れな子の前で、紫陽花と真唯が対等ならば、紫陽花は真唯の悲しみや不安も肩代わりしてあげたい。

即使真唯比自己强大很多，但她也不可能从不感到伤心，不可能把什么都当作理所当然。既然在玲奈子面前，紫阳花和真唯是同等的关系，那紫阳花也想分担真唯的难过和不安。

#もしかしたら、自分は他の世間一般的な女の子より、感情が重いのかもしれない……と、少し気になってしまったこともあったけど、仕方ない。

虽然也有可能是自己比起别的普通的女孩子更感性一些……，反正没办法，自己就是很在意这一点。

#チビふたりが真っ当な人間になれるように、普段から口うるさく叱っているのだ。そんな人間が、誰よりも大切な人相手に、適切な距離を保って知らんぷりをしていられるはずがない。

为了家里两个小不点长大成人，紫阳花平时都会不厌其烦地反复教导他们各种事情。这样的人，比谁都清楚应该与重要的人保持适当的距离。

#三人での関係性は複雑で、不安定で、不可思議だ。均衡を保つためには、互いの努力が欠かせない。だったら。

三人组成的关系，复杂、不稳定、又让人不可思议。为了保持平衡，谁都不可以吝惜努力。既然这样。

#『だけどね、そこでれな子が言うんだ。今のキスは、友達だからノーカンだ、と。それならばと私はムキになってしまって』

『不过呢，玲奈子当时也说过。因为是朋友，所以这次的不能作数，什么的。搞的我都忍不住有点点恼火』

#「え、ええっ!?　キスって、ただのキスじゃなくて、そんな……っ!?」

「诶，诶诶！？接吻，却不是接吻，这么……！？」

#だったら、今はこの奇妙で特別な恋人たちのために、微力ながら、紫陽花だってできることをしようって思うのだ。

所以，尽管自己有的不过是一点绵薄之力，但紫阳花还是想为了这位不寻常而特别的恋人，做点力所能及的事情。

#ぱたぱたと手で自分を扇ぎながら、紫陽花は顔を真っ赤につぶやく。

啪嗒啪嗒地拍了拍自己的脸，紫阳花红着脸嘟囔着。

#「す、すごい……。真唯ちゃんとれなちゃんって、もうそんなに進んでたんだ……」

「真，真厉害……。小真唯和小玲奈，已经发展到这种地步了……」

#『…………いや』

『………哪有』

#「えっ!?　いや、ってなに!?」

「诶！？哪有是什么意思！？」

#『なんというか、その後にも、いろいろとあってだね……。うん、これはまた今度にしようか！　とにかく、私は紫陽花のことも応援しているから、ね！』

『怎么说呢，在那之后也，发生了各种各样的事情……。唔，就之后再说吧！总之，我也会支持紫阳花的，加油！』

#「いろいろってなに!?　ねえ、真唯ちゃん！　すっごく気になっちゃうんだけど！　ねえ、ねえ！　いろいろってなーにー!?」

「各种各样！？喂，小真唯！好想知道是什么！喂，喂！各种各样事情，是什么！？」

#三人で付き合うことになった以上は、この状況を楽しむべきだ、って。

既然已经三人一起交往了，正应该期待这样的事情吧。

#虚勢でも見栄でもなく、今の紫陽花は、ちゃんとそう思えているのだ。

这不是说大话，也不是场面话，紫阳花现在确确实实是这么想着的。